

用語解説

用 語 解 説

力 行	競技スポーツ	心と体を鍛え、記録に挑戦したり勝敗を競うことを目的としたスポーツのこと。
	高度なスポーツ	競技を体得・習得するまでに技術や時間を要するスポーツのこと。
	子どもスポーツ	幼児期から少年期にかけての子どもたちの運動やスポーツ活動の総称。就学前、また学校以外でのスポーツ活動も含める。
サ 行	「ささえる」スポーツ	いろいろなスポーツの大会や行事の運営に参画する活動等をとおして自己実現を図るとともに、地域に貢献するというようなスポーツに対する接し方のこと。
	生涯スポーツ	人々がそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、「いつでも」、「どこでも」、「いつまでも」取り組むことができるスポーツのこと。
	新体力テスト	国民の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、体育・スポーツの指導と行政上の基礎資料を得るために実施されているテストのこと。 小学生（６歳～１１歳）、中学生（１２歳～１４歳）、高校生（１５歳～１８歳）、高等専門学校生、短期大学生、大学生（１８歳～１９歳）、成年（２０歳～６４歳）、高齢者（６５歳～７９歳）のカテゴリーに分け実施されている。 平成１１年度に内容が改訂され、従前のテストと対比するため「新体力テスト」と呼んでいる。
	スポーツ少年団	学校教育活動外において、スポーツを通じ青少年の健全育成を目的に活動する団体。
	スポーツニーズ	人々のスポーツに対する欲求。
	スポーツライフ	人々の生涯を各年代のおおよその特徴にあわせて区分した段階（ライフステージ）において、継続的に適切な運動やスポーツを取り入れた生活のこと。
	「する」スポーツ	実際に身体を動かし、当事者としてスポーツ活動を行うこと。

サ 行	生活習慣病	糖尿病、高脂血症、高血圧、高尿酸血症など、生活習慣病が主な発症原因であると考えられている疾患の総称。
	青少年スポーツ教室	学校教育活動外において、スポーツを通じ青少年の健全育成を目的に活動する団体で、スポーツ少年団に登録していない団体。
	総合型地域スポーツクラブ	「総合型」とは、「種目の多様性」、「世代や年齢の多様性」、「技術や目的の多様性」という3つの多様性を持ち、地域において、子どもから高齢者まで様々なスポーツを愛好する人々が、いつでも参加できるスポーツクラブのことで、活動拠点となるスポーツ施設を中心に、地域の人々のニーズに応じて質の高い指導者のもと、生涯を通じてスポーツを楽しむことができる組織体のこと。
タ 行	トップアスリート	オリンピック出場選手など日本を代表する国際レベルの競技力を有する競技者のこと。
ナ 行	ニュースポーツ	子どもから高齢者まで、だれでも、どこでも、いつでも気軽に楽しめることを目的に考案されたスポーツで、現在その数は数百種類あると言われており、グラウンド・ゴルフ、ペタンク、ソフトバレーボールなどが代表種目。
	バリアフリー	高齢者や障害のある人が地域の中で普通に暮らせる社会づくりを目指すノーマライゼーションの理念に基づいて、物理的、心理的な障壁（バリア）を取り除こうという考え方のこと。
マ 行	「みる」スポーツ	スポーツを観戦することにより、勝敗のみならず、競技者のプレー、パフォーマンス、フェアプレーという内容そのものを楽しみ、生活にゆとりやうるおいをもたらすというスポーツに対する接し方のこと。
ラ 行	ライフステージ	人々の生涯を各年代のおおよその特徴に合わせて区分した段階（ステージ）のこと。